



夏休みを利用して駅前通りや広場の清掃をおこなう中学生



敬老祝賀会の運営を手伝う「ジュニアボランティア」



各地区の民生委員児童委員が実施しているジュニアボランティア体験事業の小学生や、学校などを通じて集まった中学生が、敬老会やサロンでの交流会など、地域でのさまざまな催しに参加して近所の方たちと一緒に活動しています。



地区社協の催しでの模擬店を手伝う「ジュニアボランティア」の小学生や「ジュニアボランティアOB」の中学生。



ジュニアボランティアとしての活動は、体験発表会というかたちで報告の機会があります。また、学校を通じたボランティア体験や社協事業にボランティア参加したのがきっかけでボランティアセンターに登録。その後もボランティア活動をつづけている人たちがいます。ボランティアを通じた横のつながりによって、さらに人の輪がひろがっています。クリスマス会を開催して親睦を深めたり情報交換をおこなったりしています。



まとめ

ボランティア活動は、他人のお手伝いということだけでなく、いろんな人に喜んでもらったり、楽しんでもらったりすることを通じて、新しい仲間と出会ったり自分の世界をひろげたりといった、自分の喜びになったりすることもあるかも。
ボランティア参加の第一歩としてボランティアセンターをのぞいてみては？

旭区ボランティアセンター
TEL 392-1133

めざすは福祉のまちづくり!

～「地区社会福祉協議会」はこんな団体です～

「地区社会福祉協議会」は地域のみなさんの最も身近に「自分の地域は自分たちで良くしていこう」という気持ちで作られた任意の団体です。

今回は旭区内19地区の中の白根地区社協をとりあげます。



「防災エンス」(避難所宿泊体験)について紹介します。災害が発生し、避難所生活を余儀なくされた時のような困難が生じるか、災害発生後の避難所を想定した宿泊体験を、平成21年9月26日から27日にかけて開催しました。

自治会・町内会を通じて呼びかけ、地域住民の方々をはじめ鶴ヶ峰中学校の生徒たちや区内にある施設の利用者、職員など61名が参加し、地域で初めての宿泊体験、とくに中学生の活動に注目しました。



視覚障害者の疑似体験



食事の準備(各自への配膳等)



間仕切りダンボールの組み立て

実際にアイマスクをして、白杖をつきながら歩行し、視覚障害とその誘導を体験したり、率先してダンボールを組み立てるなど、まさに中学生は、「地域の力」。強い戦力を発揮してとても頼りになりました。中学生は、常に地元に住んでいます。地域と中学校との連携の必要性が今回の訓練で認識できました。今後は、どんどん地域の行事に参加して地域の皆さんと顔見知りになって活躍してほしいものです。